エゴマ‘田村種(中生黒)’と‘白川種(晩生)’の品種特性と収穫適期

概要

エゴマは、同一種では移植時期が異なっても、開花期や収穫時期に大きな差がなく、刈取作業の分散が困難です。生産拡大のためには収穫時期の異なる種の作付けが必要であるため、刈取時期の分散可能な‘田村種(中生黒)’と‘白川種(晩生)’の品種特性と収穫適期について紹介します。

品種特性

‘田村種(中生黒)’

‘白川種(晩生)’

図1　エゴマの草姿と穂、種子の様子

表1　各品種の生育データおよび収量性(2021～2022鳥取県農業試験場　参考)

種名	草丈(cm)(開花期頃)	穂長(cm)	精子実重(kg/10a)	千粒重(g)	含油率(%)	開花始め	開花期	成熟期
田村種(中生黒)	127	10	79	2.5	51	9/9	9/12	10/14
白川種(晩生)	113	5	85	2.4	50	9/22	9/24	10/30
若桜在来	125	9	69	2.1	50	9/12	9/14	10/16

注1)精子実重、千粒重は乾物重、開花期後28日の値。含油量はソックスレー法によるジエチルエーテル抽出物量。

注2)開花始め:ほ場で開花した株が現れた時期、開花期:ほ場5割の株が開花した時期。

注3)成熟期:全個体の90%以上が成熟した時期。

- ‘田村種(中生黒)’と‘白川種(晩生)’は、含油量、収量性が同程度です。
- 若桜町で作付けされている‘若桜在来’や‘田村種(中生黒)’と比較し‘白川種(晩生)’は、開花期、収穫開始時期が10日ほど遅いです

収穫適期

開花期を0日とした経過日数と収量歩留(%)の推移を調査し90%以上の歩留を目標とした場合

- ‘田村種(中生黒)’の収穫適期は、開花期後26～31日の6日間です。
- ‘白川種(晩生)’の 収穫適期は、開花期後27～38日の12日間です。

‘白川種(晩生)’は一般的な作付け種より収穫適期の期間が長いのも特徴です。

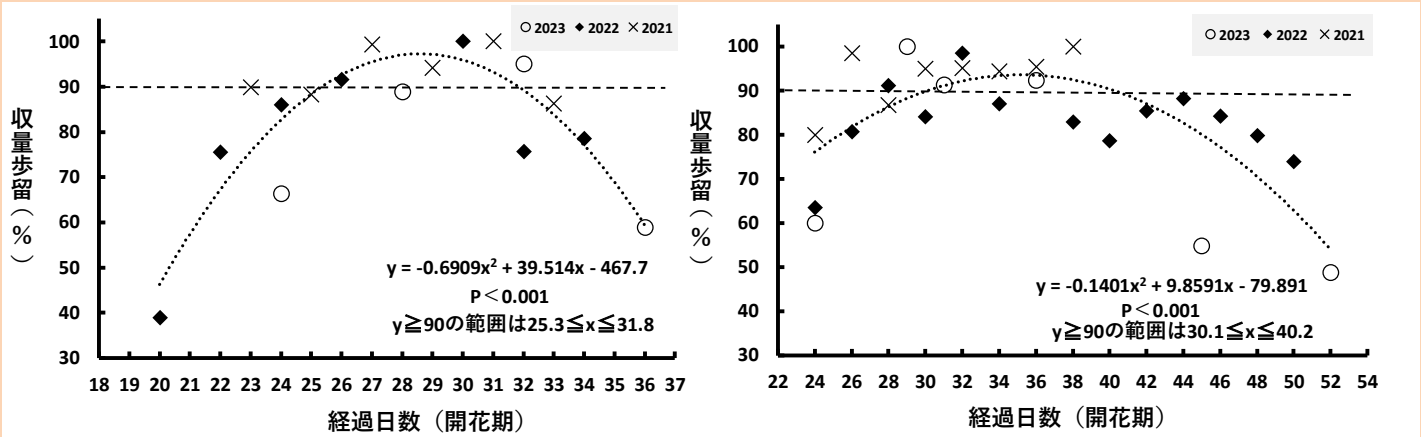
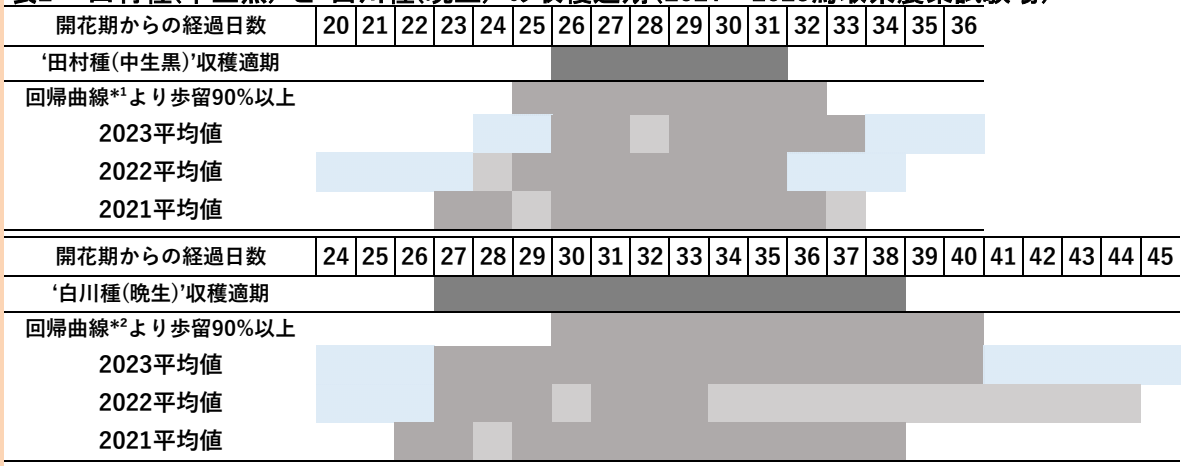


図2 ‘田村種(中生黒)’(左)と‘白川種(晩生)’(右)の開花期からの経過日数と収量歩留の推移
注1)y≧90範囲は回帰曲線より算出した値。開花期を0日として計測した際のデータである。

表2 ‘田村種(中生黒)’と‘白川種(晩生)’の収穫適期(2021～2023鳥取県農業試験場)



注1)収穫適期:平均値と回帰曲線から判断した収穫適期。 :収量歩留90%以上 :収量歩留80%以上 :収量歩留80%未満
注2)回帰曲線*1はy＝−0.6909x²+39.514x−467.7、回帰曲線*2はy＝−0.1401x²+9.8591x−79.891より、算出した予測値。

補足

開花期とは、ほ場の5割の株が開花した時期です。
⇒開花期を把握することで収穫時期が判断可能です。

図3 開花の様子

表3 ‘田村種(中生黒)’、‘白川種(晩生)’の生育ステージ(2021～2023鳥取県農業試験場)

種名	試験年度	移植時期	開花始め	開花期	成熟期
田村種(中生黒)	2021	6/24	9/9	9/12	10/13
	2022	6/20	9/10	9/13	10/15
	2023	6/21	9/19	9/22	10/24
白川種(晩生)	2021	6/24	9/21	9/23	10/31
	2022	6/20	9/23	9/25	10/29
	2023	5/24	9/27	9/29	11/1
		6/21	9/29	10/1	11/2

利用上の留意点

・開花期は年次変動が大きいため、毎年確認が必要です。

1)エゴマの開花は、ほ場の外周から咲き始めるので、開花期はほ場全体を見て判断する。
2)エゴマの開花期は、生育期間の高温によって遅れる特性がある。そのため、標高が高いほ場では生育期間の気温が低いことから、平地と比較して開花期が数日早まることがある。
3)共同利用コンバイン等の作業日程は開花期を見極めた後に調整する。

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 水田高度利用研究室 TEL：0857−53−0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい